



「メインはお米です。」  
 今回ご紹介するのは、宇川農産の宇川純矢さん。中核農家として、80町の水稻をされている。土作りに力を入れており、福岡の山本牧場さんの牛糞、津沢養鶏さんの熱処理をしていない鶏糞を利用してはいる。「生きてる微生物が大切なんです。微生物がいると、『あたり』が柔らかくなるんです。」  
 また、常温乾燥機の設備を導入し、熱風を使わない自然な乾燥を行うことで、食味が落ちないよう工夫している。

# お天道様と一緒に。

No.86

宇川農産 宇川 純矢

「親父が専業農家をはじめたのが自分が18歳のときです。」  
 宇川農産は、持続農業法に基づいた環境にやさしい農業の実践者として、エコファーマーを取得。  
 「自分ももともとサラリーマンで経理の仕事をしていました。30歳を超えてから会社を辞めて家を継ぎました。」  
 現在41歳。  
 「親父が体を悪くしたことで、会社を辞めるときに40町ぐらいたって、そろそろ家族だけじゃできない状況だったんで。」

この街で頑張る人、会社、団体を「人と人とのつながり」で紹介していきます。



とはいつても、農業の課題は大きい。どれだけ高価なお米を作っても、市場の流れに左右される。そしてTPP。  
 「関税に関しては仕方がないとは思っています。ただ、医療品や薬の問題。介護保険、共済の問題等多事に渡る。」  
 地方でどう生きていくか、多くの議論が必要だ。



前職では灰皿一杯になるほどタバコを吸いながらの仕事。  
 「おいしいものをつくる人がタバコってどうなんだ？よし！田んぼをするならタバコをやめよう。」  
 そんな決意で始めたお米づくり。  
 「生き物が相手なんで、休みがとれないのが大変。ただ農業は朝はちよっと早いけど、夜はお天道様と一緒にならなくていいです。」

## ▼園児にクリスマスツリーをプレゼント



「お金の話になると農業はやれないと思います。そんな楽な仕事じゃない。でも、いい職業だなと思っています。」  
 「育てた農産物を一番いい瞬間に、誰よりも早く食べるのができる。収穫の喜びを味わえます。」  
 現在、小矢部農業青年協議会で、精力に活動されている。この協議会は、農業だけでご飯を食べる40歳以下のメンバーで構成されている。  
 TPPの問題についても商業関係者と一緒議論し合える場を作りたい。」  
 小矢部では、農業をがんばっている青年と商業をがんばっている青年と協働で行うプロジェクトがあまりない。  
 「地域の子ども達に花や緑に親しんでもらう『花育活動』を始めています。この活動をいろんな方に知ってもらい、新しい仲間を増やしていきたい。」  
 冬はマイクリスマスツリーを小矢部市13ヶ所の保育園及び保育所の園児にプレゼントしている。  
 「それを自宅に持ち帰り、育ててもらいたい。各家

庭にクリスマスツリーのある街にしたい。そして電飾で飾ってくれば、まさにメルヘンの街になるんじゃないかと。」  
 「8月19日を花育の日として、保育所に小矢部特産のバラのブールを作るのもいいなと話しています。」  
 インターネットを積極的に利用して、今新しい市民活動が生まれようとしている。



農作業受託・請負耕作  
 お米栽培及び販売・野菜栽培及び販売  
**宇川農産**  
 〒932-0105 富山県小矢部市胡麻島203  
 TEL 0766-61-2532  
<http://blogs.yahoo.co.jp/ukawaj>

プレゼント



### 家に帰ってきて食べるごはんが1番美味しい。

### お米 1.5 kg 5名様

募集期間：平成24年4月23日(月)まで  
 PC・携帯からのご応募：[http://www.startaro.com/shop/OYABE\\_SNS](http://www.startaro.com/shop/OYABE_SNS)会員様はキャンペーンに自動応募されます  
 Oyabe Local SNS：<http://www.sns.startaro.com/>

農業と商業が繋がった新しい活動が、カタチになる日は近い！



店長の一言